

第2回 学校関係者評価委員会

1 実施日 令和2年1月16日 (木) 午後4時～5時30分

2 会場 校長室

3 参加者 学校関係者評価委員 山口 幸久(教育振興会会長) 中畷 義夫(教育振興会副会長)
小野 茂之(教育振興会副会長) 志村 勇(教育関係有識者)
清水 悟(百々育成会会長) 市川 孝嗣(主任児童委員)
山澤 浩二(保護者代表・PTA会長 学校関係者評価委員長)
清水 千歩(保護者代表・PTA副会長)
学校側 笹本 仁(校長) 大原 千栄子(教頭)
田原 和仁(教務主任) (生徒指導主任)

4 学校側から提案された内容

(1) 教職員自己評価(教務主任) (2) 児童アンケート(生徒指導主任) (3) 保護者アンケート(教頭) についての解説や考察, 具体的な学校の様子を説明した。

5 協議された主な内容

学校側からの説明を受け, 学校関係者評価委員長が座長を務め, 座談会を行った。

※○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

(1) 教育活動について

【中1ギャップ対応について】

○中1ギャップに対しての取り組みは具体的に何をしているか。6年生の児童を中心に考えた時に, 中1ギャップを解消する方法は何かあるか。

☆6年生に対して, 中学校からの説明会があったり, 中学生の授業を見たりする機会が3学期にある。御勅使中学区の小中一貫校の取り組みとしては, 3校の教員同士が授業を見合っている。今後は, 中学校教員に小学校で授業を行ってもらいたいと考えている。

☆中学生は様々忙しいので, なかなか子ども同士の交流はできないが, 今年度から中学生が小学校に来て, あいさつ運動を行ってくれた。また, ホッケーの練習を手伝ってくれたりしている。

【小1ギャップ対応について】

○中1ギャップ同様, 小1ギャップへの対応はどうなっているのか。

☆市教委が中心となり, 「途切れのない支援会議」が立ち上がっており, 市教委, 保幼, 学校で連絡を取り合ってスムーズな連携を目指している。また, 教育課程の中に, スタートカリキュラムを盛り込み, 小学校生活に慣れるまで弾力的な教科内容を教育課程を盛り込んでいる。

【新学習指導要領への対応について】

○来年度から新学習指導要領が全面実施となるが, 英語, 道徳の教科化, プログラミングの実施と先生方がとても忙しくなるのではないか。

☆プログラミングは高学年で実施。やるが増えるばかりで, 減らすことができない現状がある。

(2) 生徒指導について

【あいさつについて】

○あいさつ指導は親がするしつけだと思う。家庭の教育力が高くないので学校にお願いするしかないように思うが、もっと家庭で指導すべきであると思うがどうか。

☆家庭の中でのコミュニケーションが不足している現状がある。人と人の心が通じ合うためにもあいさつは必要なことなので、今後もきちんと挨拶ができる児童を目指し、指導していきたいと考えている。

【児童の学校生活について】

○友達と仲良くできないと回答した児童が12名いるが、その原因は何か把握しているか。

☆アンケートからは分からないが、児童はアンケートを取る直前に起こったことに左右されることもある。

【いじめについて】

○いじめにあたる事案は多少なりともあるのか。また、どんな内容のいじめで、具体的にどのように対応をしていくか。

☆いじめ事案は若干名ある。その内容は悪口を言われたり、嫌がることを言われたりするような内容である。いじめの内容によっては保護者に連絡したり、保護者に学校に来てもらったりして指導する。

○学校が楽しくないと答えた児童が13%、約40人いると思うが、その具体的な原因を把握しているか。

☆原因を記述する項目がないので把握できていない。

○原因に対して、具体的な対応策や改善策をアンケートの中で記述する必要がある。全部を何とかしようとするのではなく、一番重要なことを決めて対応していくことが大切である。一点特化全面展開。

(3) 安全・安心について

【通学路】

○前期の学校関係者評価委員会で確認された上八田のブロック塀の件はどうなったか。

☆市教委へ自治会の承諾を得て、危険箇所改善の要望を書面で行った。

☆北新居の信号箇所が大変危険である。地域の方からも声を上げていただきたい。

○道路緒拡張工事が必要なので、地区から要望をしていく。また、児童の危険が伴うので、市教委や学校、振興会も巻き込んで活動することが大切である。毎年要望していくように地区でも話をする。

(4) その他

【教師の多忙化について】

○先生方がとても忙しい。どこを削れるかを見極めていくことが必要である。

☆先生方はギリギリの状態で頑張っている。行事や会議の精選を行ってはいるが、人的配置がほしい。

○先生が休んでしまった時は、他の先生を借りることができるのか。

☆代替の先生を探さなければならないが、なかなか見つからない現状がある。市教委に教員バンクのようなシステムがあるとよいのだがそれもない。また、教員免許制度の関係で、年配の先生方の免許が失効していて、代替職員を探すのが大変である。

【人事評価について】

○先生たちの年度始めの目標設定やその評価、教師の人事評価はどうなっているか。

☆平成28年度から人事評価制度が始まった。これは給与へも反映されるものである。まず、先生方に自己観察書を書いてもらい、年3回の面談、その折に指導助言を行い、3度目の面談では評価開示を行っている。

【アンケートについて】

○児童用アンケートも1学期との比較を明示してほしい。そうすることにより、児童の変化が分かる。

☆別資料としてはあるので、今後は掲載していきたい。

6 全体評価

全体傾向を把握するため、[A：そう思う][B：ほぼそう思う]という評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』、[C：あまりそう思わない][D：そう思わない]という評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある』と判断している。

(1) 教職員自己評価について

35問中34問において、肯定的評価80%を超えている状況から、満足できる状況にあると考えられる。改善の余地があると判断される内容は、「各教員が、多忙化解消に向け、意識した取り組みを実践している。」が52%と大変低い。これらについては、協議の中でも話題になり、原因を探り改善にむけて取り組むようにしていきたい。今後も多忙化改善が教職員一人一人に実感できるような取り組みを行っていく。また、前期で80%を下回った「総合的な学習では、ねらいをふまえた活動計画を立て、実践している」が95%に転じた。教師が1学期の反省を踏まえ、総合的な学習のねらいを意識して実践してきた成果であると推測できる。

(2) 児童アンケート評価について

11問中10問において、肯定的評価80%を超えている。前期に引き続き、改善の余地があると判断される内容は、「自分で考えたことを、進んで発表している。」である。前期同様、「勉強がわかる」「しっかり聞く」は肯定的な評価を得ている。しかし、校内研究とも合わせ、主体的に学習活動へ取り組み、発表などを通して友だちと関わり合いながら学び、高めあう子どもを今後も育てていきたい。

(3) 保護者アンケート評価について

前期と比べ、20問中11問で肯定的評価が下がっている。特徴としては、【学校の教育活動について】の項目において、8問中5問の質問が前期に比べポイントが下がった。しかし、全体的には、肯定的評価がおおむね80%以上となり高い評価を得ている。改善の余地があると判断される内容は、前期に引き続き「子どもは、学習がわかり、基礎学力が身についている。」である。教職員自己評価や児童アンケートと関連した内容であり、この項目の肯定的評価の向上に向けて継続して努めていく必要がある。

(4) まとめ

後期の学校評価においても、高い水準で肯定的に回答されている。このことは、本校の教育活動が安定して行われていると考えることができる。改善の余地があるとされる項目については、学習に関わる内容であり、今回のアンケート分析でも大きな課題となった。この学習に関わる内容、特に基礎学力の定着と学力の向上については、学校としても重点的に取り組んできてはいる。しかし、保護者が実感できるほどの学力が児童に身に付いていない状況があると思われる。今後も本校の重点課題として、教師が一丸となりきめ細かく丁寧な学習指導に取り組んでいく。

7 今後の課題として意識されたこと

- (1) 具体的な本校の課題としては、前期と同様に学力の向上と安全・環境への対応の2点である。これらのことが改善されるように研修等を行い教職員の指導力を向上させるとともに、保護者や外部機関と連携を図って対応していく。
- (2) 保護者は、学校への期待がある。学校は、その期待に応え、保護者の信頼を得る教育活動を行い、家庭の教育力を生かしながら学校教育目標の実現に向けて努めていく。

8 特記事項 なし

